

2025A セメスター 経済Ⅱ(竹野 太三教員) 期末試験問題

文責:2025 年度入学 文科一・二類 21 組 K.T.

作成日:2026 年 1 月 26 日

(おことわり)説明文、注意事項は UTOL にアップされたものの引用ですが、問題用紙(解答用紙と一体型)は回収されているため、問題文は一語一句一致しているとは限らない旨、ご了承願います(問題文上の誤字は訂正しているほか、97%ほどは一致していると考えていただいて構いません)。

↓ 以下、試験問題

経済学Ⅱ(2025 年度 A セメスター 月曜 3 限 担当:竹野) 2026 年 1 月 26 日 13:25~14:35
試験時間 70 分 持ち込み 不可 問題/解答 用紙 1 枚

以下の全ての問いに答えなさい。答えは与えられた余白に収まるように書くこと。また、裏面には何も書いてはいけません。(裏面に答案を書いても採点の対象とはなりません。) 万一、問題の意味が不明な場合は、その問題をあなたがどのように解釈したか書き、その解釈のもとに答えなさい。また、余った問題用紙や、無記名・白紙であっても、問題用紙を持ち帰ることは不正行為になりますので、持ち帰ってはなりません。

1. 完全競争市場において、新規参入が生じた場合、参入前から当該財の供給を行っていた個別の企業は生産量をどのように調整するでしょうか、その理由とあわせて簡潔に説明してください。
2. 自己代替効果とは何か簡潔に説明してください。また、この効果の正負と、その意味を答えなさい。
3. 経済学において微分がどのように役立つか簡潔に答えてください。
4. 費用最小化問題をラグランジュ乗数法によって解いたとき、ラグランジュ乗数は何を意味するでしょうか。また、効用最大化問題をラグランジュ乗数法によって解いたとき、ラグランジュ乗数は何を意味するでしょうか。
5. 以下の言明について、本講義で学んだことをもとに、あなたの所見を述べなさい。
不況に際して、人件費を削減したり、流通ルートを見直すなどして生産コストを下げようとする企業(生産者)は、結局は利潤を最大化しているのだ。

強い影響力を行使しうる政治家が、「お米の価格は〇〇円台が望ましい」など、国民の関心が高い特定の財の価格について言及することは、強いリーダーシップと言え、価格は正に資するため好ましいといえる。

↑ 以上、試験問題

(アドバイス)

各問題の下、余白のあった部分は改行をしています。適切な文字サイズで書いた場合、最大で7行ほど書ける余白でした。また、自分を含め周りの友人なども、「簡潔」とは、2~4行ほどであるとの解釈だったので、その感覚で問題ないと思います。

次に問題について、他の年度の問題と比較すると、例にもれず①計算問題は出題されないことがほとんど、②過去問同様の問題が出ることが多い、③言葉の定義の質問が多い、ことが分かります。今年は、おそらく4. で差がついたと思われます(筆者も手こずりました)。計算問題が出ないとはいえ、概念は聞かれることは念頭に置くといいと思います。

最後に(おせっかいですが)勉強法について、おそらく今後も、授業内容としては経済Ⅰと似たような内容が多いと思われます。竹野教員の経済Ⅱのスライドは枚数が膨大なため、必要ない部分は削除したり、よりまとまっている経済Ⅰのレジюмеなども参照しつつ勉強するのが最善かと思います。言ってしまうと単語テストなので、それほど身構えずとも大丈夫だと思います。これから試験の方、健闘を祈ります。

以上